

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The meaning of surgical margins	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ4-1, WEB-CQ4-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（VI ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	73	
	号	3	
	ページ	492-497	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1984	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Abide JM	Departments of Dermatology and Surgery, Division of Plastic and Reconstructive Surgery, at Emory University School of Medicine
その他著者 1		Nahai F	
その他著者 2		Bennett RG	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			

レビュー研究の6項目	目的	腫瘍を切除する際の切除マージンの認識の違いについて
	データソース	専門家の意見
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	病理学者 11 人と形成外科医 25 人が対象。病理医が腫瘍の側方断端を診断するための切り出しの仕方からすでに個人差があった。また、「腫瘍の浸潤は断端に近い」という報告をうけたときの外科医の理解にも個人差がある。腫瘍の違いによっても外科医の対応は異なっており、有棘細胞癌が断端近くに見られれば一般に追加切除を行うが基底細胞癌では行われなかった。また、病理医が切除断端フリーと報告した場合、それを外科自身も顕微鏡的に確認するかどうかにも意識の差がみられた。
	結論	腫瘍の切り出し方や、断端の評価、表現の仕方にはルールが必要で、外科医と病理医の間の意思の疎通を密にすることは重要である。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	山崎直也
レビューワーコメント	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ VI ） Mohs microsurgery と通常の切除では断端の形状も病理学的検索の方法も異なっていることを指摘しているが、それ以前に、病理医の中でも、また外科医の中でも、標本の取り扱いや言葉の使い方の統一がとれていないというような根本的な問題を取り上げていることは興味深い。ただ、あまりこれにとらわれると現場は混乱する